令和５年度「地域とともにある小中一貫教育」に関する自己評価書（前期）

鬼北町立日吉小・中学校

分野	目　的	目　標（評価指標）	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
小中一貫教育	義務教育９年間の一貫した指導による教育の質の保証・向上	①　乗り入れ授業やICT活用等により、児童生徒の学力の向上を図る。	B　A	専門教科の乗り入れ授業と、ICT機器を活用した授業実践を行うことで学力の向上を目指している。小学校・中学校ともに、家庭学習の習慣が身に付いていない児童生徒がいる。	昨年度以上に、専門性のある授業を行うことができている。家庭学習記録表等を活用し、家庭学習の充実を図るとともに、個に応じた課題を与えるようにしていく。
		②　小中合同行事を実施することにより、小中学生の交流の場をつくる。	A　A	計画していた小中連携行事は、概ね実施し、効果的な交流ができた。	今後も状況に応じたコロナ感染対策を行わなければならない。児童会・生徒会を中心に創意工夫を生かした行事や交流活動を行う。
		③　９年間を見通した系統的なカリキュラムによって「郷土学」を実施する。	A　A	地域コーディネーターと連携し、地域の方々の協力で、多様な学習内容を実施することができた。	地域コーディネーターの協力を得て、今後も充実した「郷土学」を展開する。郷土学の担当者を中心に、変更や改善を加えていく。
	学校運営協議会委員の所見	○　先生方の工夫により、いろいろな一貫教育の効果的な交流が見えた。 ○　少ない児童が仲良くしている。 ○　郷土学にはならないのですが、昭和で言えばもうすぐ１００年になります。戦争体験者が少なくなっている。そういう人たちの話を聞く機会をつくって「平和」について考えることができればいい。 ○　縦割り班の活動に魅力を感じる。中学生の負担にならないような活動になるといい。将来「日吉に帰りたい」と思えるといいですね。 ○　小中一貫教育だから実施できている乗り入れ授業の実施と郷土学を、児童生徒数減、教職員の減の中でよく頑張っている。 ○　小中連携行事が多く非常に良いと思う。 ○　郷土学、一人一研究等伝統的な教育活動を更に深化・充実するように頑張ってもらいたい。		学校の対応	○　アナログとデジタルそれぞれの良さを適切に生かした授業力の向上を図る。また、研修主任や学力向上推進主任等を中心に、小中合同の授業研究や授業公開を計画し、実践する。 ○　家庭学習習慣の確立を目指し、家庭学習記録表等を活用して家庭学習の習慣化を図る。小学校で確立した習慣を中学校で生かし、将来の進路実現につなげる。 ○　戦争体験者の話を聞く機会を人権参観日等で確保できないか検討していく。 ○　全国学力・学習状況調査の結果を活用して児童生徒の学力向上の検証に生かし、個に応じた指導に役立てる。今後も、小中の教職員が共通した目標に向かって児童生徒を指導できるよう、連携を強化する。

コミュニティ・スクール	地域に開かれ信頼される学校づくり	④　学校運営協議会での意見を学校教育に反映する。	A　A	委員からの意見を参考にして、取り入れられることから実行していくように心掛けている。	今後も、学校運営協議会でいただいた意見を、学校教育に反映する。
		⑤　学校教育の実態を把握できるよう、学校運営協議会委員に教育活動を公開する。	A　A	６月の参観日・教育懇談会の案内を全戸配布するなど、学校行事等の案内を積極的に行うことができた	早めの案内状の発送を心掛け、より多くの教育活動を公開するとともに、気軽に参観できる雰囲気づくりに努める。
		⑥　教育活動の状況について地域住民に情報提供を行う。	A　A	今年度も学校だよりの全戸配布を継続しており、ホームページも更新回数を多くするように心掛けた。	今年度は、地域アンケートの結果も踏まえて、情報発信の在り方について検討していく。
	学校運営協議会委員の所見	○　地域の方々にもっと学校を近くに感じてもらえる活動があれば、より多くの方に学校づくりに協力してもらえるのでは。 ○　無理のない形で行ってほしい。 ○　地域の意見を反映した取組がなされている。 ○　できることは実施していく。無理なことはやらなくてもあり。 ○　日吉は高齢者が多い。紙面をＡ３にして文字を大きくして地域に配布すれば住民にもっと見てもらえるのではないか。 ○　メディア・ホームページの情報公開で教育活動が手に取るように分かる。学校だよりも読みやすい工夫がされている。先生方の日々の努力に頭が下がる。 ○　高齢の方との交流（お互いに良いと思う。） ○　委員として学校評価が少しでも適切に行えるように、案内のあった学校行事等には可能な限り出席するようにしている。学校に入りやすいように、教職員や子供たちが、明るく出迎えていただくよう期待している。		学校の対応	○　学校運営協議会でいただいた提言を真摯に受け止め、学校運営に生かしていく。学校運営協議会での協議内容が、地域住民に、簡潔かつ具体的に伝えられるよう努める。 ○　今後もホームページやケーブルテレビ等を活用し、日々の教育活動の情報発信を積極的に行う。 ○　今後も学校だよりの紙面を工夫し、読みやすい形で全戸配付し、日吉地区全ての人に学校の取組の様子を知らせていく。 ○　今後も学校行事や参観日等、学校公開の機会を設け、地域への案内を積極的に行う。 ○　総合的な学習の時間や郷土学の時間、児童会・生徒会活動等で高齢者との交流する場が設定できないか検討していく。

地域学校協働本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	⑦　地域ボランティアの方による学校支援活動を実施する。	A　A	総合的な学習の時間、郷土学、見守り隊、放課後子ども教室など、多くの方の協力を得ることができた。	今後も地域コーディネーターと連携し、支援活動の充実と地域人材の発掘に努める。
		⑧　学校支援の状況について、地域住民に情報提供を行う。	A　A	ホームページ、学校だよりやボランティア通信、ケーブルテレビ等で情報提供を行った。	様々なメディアを活用し、今後も、情報を素早く正確に提供できるように心掛ける。
		⑨　地域コーディネーターが、主体的かつ効果的に活動できるようにする。	A　A	地域コーディネーターと学校行事に関する情報共有を行い、計画的に準備や調整を行うことができた。	学校行事等の計画を地域コーディネーターと綿密に協議し、余裕を持って準備・活動できるようにする。
	学校運営協議会委員の所見	○　地域ボランティアの方々には、本当にいろいろな形で子供たちに関わってもらっているので、そういった方々の声をもっと聞きたい。 ○　地域力も高齢化等により限界があると思える。 ○　ホームページを活用した情報発信に努めている。 ○　特にケーブルテレビ放送は楽しみ。 ○　地域ボランティアの方が子供たちのために献身的な協力をされている。学校存続のために無関心な住民の取組を考えていく必要がある。 ○　情報提供が多く、よいことだと思う。 ○　地域コーディネーターを中心に学校と地域とがうまく連携をとっていると感じる。		学校の対応	○　地域コーディネーターと連携を強化し、地域への情報提供を行うほか、地域人材の発掘に努める。また、様々な活動後に地域ボランティアと地域コーディネーターとの話合いの時間を設け、地域ボランティアの方の思いをボランティア通信等で発信する。 ○　公民館や各種団体との連携・分担による学校運営を心掛け、効果的な教育活動、地域連携を行っていく。 ○　ホームページやボランティア通信、ケーブルテレビ等による、より一層の情報提供に努める。情報提供を積極的に行うことで、地域の方に日吉小中学校への関心を高めてもらう。